

ロハン・デ・サラム

ロハン・デ・サラムはヨーロッパ、アメリカ、カナダ、オーストラリア、旧ソビエト、でジョン・バービロリ、アルディアン・ボルト、ズビン・メヘタ、小沢征爾、ウィリアム・シュタインブルグの指揮のもと主要オーケストラと共演すると共に、ルシアーノ・ベリオ等自身の曲を指揮する作曲家とも共演してきた。チェロとオーケストラのための **I1 Ritorno degli Snovidenia** のイギリス初演後、ベリオは彼の演奏、音色、イントネーション、フレージング、弓引きを絶賛し、後にファイナル・スクエンツァ **no.14** を彼のためにかいている。その曲はロハンがスリランカでの幼少期から演奏してきた楽器である同国のカンディアン・ドラムのリズムをベースにした曲であった。

ロハンはコダーイ、シヨスタコーヴィチ、プーランク、ウォルトンらと共演し、最近ではプッスルー、クセナキス、ベリオ等の現代音楽作曲家と共演し、皆が彼のために曲をかいている。彼の録音にはヴィバルディのソナタ、ラップラのチェロとオーケストラのための独白、ブリッテンのチェロ組曲 1～3 番、ジョン・メイヤーのラガマラスとプラブハンダ、クセナキスのコットスとカーターの虚構 I・II などがある。ベリオのスクエンツァ **no14** は 2006 年 4 月 M おでによってリリースされ、同曲の **Edition Zeitklang** によるリリースとフェルドマンのトリオのリリースを控えている。

2004 年 12 月、スリランカのペラデニヤ大学から **D.Litt** 名誉を受賞する。2005 年 12 月にはスリランカ大統領からスリランカの国民名誉賞デシャマニヤを受け取った。

2005 年 11 月にアルディッティ弦楽四重奏団を離れてからダルムシュタットのサマースクール、スイスのアバンギャルド・チロル・ルエムリンゲン音楽祭で教鞭をとると共にソロ・アンサンブルリサイタルを行っている。ソリスト、デュオ、トリオ、アンサンブルで幅広いレパートリーを持つ彼はドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン、オランダ、スイス、スコットランド、キプロス、イングランド、メキシコ、アルゼンチン、カナダ、日本、スリランカ、アメリカ、ヨーロッパ各国でのコンサートのほか、リスボンのグルベンキアン基金、オスロのウルティマ音楽祭、アバディーンのサウンドフェスティバル、マドリッドの **Musicadhoy** などの音楽祭に招待されている。トランペット奏者ラジェシュ・マハタとの革新的音楽ミーティングでの共演は今後も続く。